

医家隨想



例外のない規則はない

現在の日本の政治家は二点セツトのつりの一つが完全に欠落してゐる。

いた。後の時代に経済用語は全て下に金を書くと早とちりした者が貰金を「貰金」と書を誤つたが、読み方は「ちんきん」のままだったので、金を「ぎん」と讀む例外的な読み方が定着したと推理してみたが如何なものだらうか。

では例外と云ふ觀念から自作のクイズを進呈してみたい。

豊 泉 清

漢字を難しいと感じる理由は二つあるが、本稿では「例外」をキーワードとして考察を試みてみた。

金を「きん」と読む。現金、料金、罰金を「おいか」と読み、財政破綻の追加を「おいか」と読み、脆弱な基盤の脆弱を「はじょく」と読み、脆弱な大臣もいた。

江戸時代は高額の通貨が金貨で、現在の「一円や五円」に相当する一文銭は銅貨だった。一般庶民が日常の経済生活で最もよく使つたのは金と銅の中間の銀貨だった。労働の報酬も銀貨で支払われることが多いから、江戸時代には「舊銀」と書

1. 達磨
2. 麗輕
3. 飴頭
4. 素麵
5. 読本

前掲の五つの言葉の共通点は何だらうか。

上達、発達、到達など、達は「たつ」と読むのが原則だが、達磨(だるま)に限つては達を「だる」と読む。達を「だる」と読むのは達磨の一語だけである。

剽輕を「ひよつけん」と読む。輕は「けい」と読むのが原則だが、剽輕に限つて輕を「きん」と読む。輕を「きん」と読む漢字が満足に読めない。總理がマスメディアで話題になつた。漢字を誤つて読む閣僚は昔から何人もいた。追加予算の追加を「おいか」と読み、財政破綻の追加を「はじょく」と読み、脆弱な基盤の脆弱を「はじょく」と読み、大臣もいた。

西欧諸国の政治家は権力と財力と教養の二点セツトを備えていた。國家の指導者は何よりも先ず知的エリートだった。

むのは翻訳の一語だけである。

頭巾や頭上などの頭は「ず」と読み
先頭や筆頭の頭は「とり」と読みが、饅
頭（まんじゅう）の頭は「じゅう」と読
む。頭を「じゅう」と読むのは饅頭だけ
である。

水素や酸素など、素は「そ」と短く読
むが、素麺（そめん）に限って素を「そ
う」と伸ばして読み、素を「そつ」と伸
ばして読みのも素麺だけである。

読の音読みは「いく」だが、読本（と
くほん）だけは唯一例外的に「いく」と
澄んで読み。但し、読本のよひどり上
に別の言葉を冠すると、連濁現象で「ど
くほん」と読む場合もある。また読経（ど
きょう）の読みは「ど」と読み、句読点（く
じつどん）の読みは「どひ」と読み。読に
は「どく」「ど」「どひ」とこの例外的な
読み方が三つも存在する。

この子を「の読みのせ」の言葉だけと
いふ唯一例外的な読み方を探して列挙し
てみた。但し、私が調べた限りでは、と

いう条件付きである。以上の考察から、
例外的な読み方が混在するか、漢字は
難しいと結論できる。もし漢字に「子」一
音という原則が貫かれていれば、国語學
習はきわめて楽なはずである。例外的な
規則はない」は蓋し名言である。これ
からも例外的な漢字の読み方を集めて一
覧表を作つてみたいと思つてゐる。

羽田沖事故

▲氏の名 (一)

穗刈正臣

昭和五十一年四月、日航機が東京湾羽
田沖で墜落事故を起した。▲氏は、そ
の飛行機に航空機関士として乗務してい
たが、奇跡的に助かった。

やがて彼は定年退職した。私は退職し
た彼とめったに会つことはなかつた。た

まに会つたのは日曜日のあるマージャン
屋くらいで、以前の飛行機仲間と独特の
口調で会話を交わしながら、樂しそうに

マージャンをして、彼の姿がそこにはあ
つた。

三年ほど過ぎたある日、彼は某大学病
院に緊急入院した。早速見舞いに行きた
かつたが、なにやかやとあつたため、入
院後二週間ばかりして彼の病室を訪れた。

春にはまだ肌寒さが感じられる夕
暮れであった。昭和初期に建てられたと
いう二階建ての古い病院の、なんの飾り
付けもない真白い壁に囲まれた殺風景な
部屋にただ一人、彼はベットによじたわ
つていた。

その日、彼の病状が良かつたのか、そ
れともそろそろ入院生活に退屈さを感じ
ていたのか、彼は私の顔を見るなり、ベ
ットから起きあがり、独特の福島弁で自分
の体験した「羽田沖事故」について語り
はじめた。

「あの事故については、私は人に言へ
ない苦しみがあるんですよ」

それまで 私は彼を「事故で全身に傷

と、強い口調で言つた。

を受け、九死に一生を得た、氣の毒な被害者」としか思つていなかつたので、彼が今口にした言葉の意味が一瞬判らなかつた。

彼の話は一時間余りに及んだ私は持つていた雑誌の空きスペースにメモをとつた。やがて語り終えた彼は、帰ろうとする私に

「日本航空で体験したすべてのことを先生は書き残しなさい。きっと、きっとで

すよ」

彼を見舞つた二日後、私はシカゴで開催された「国際航空医学研究会」に出発した。今回の旅程は長く、十二日後に帰国した。

翌日私は、友人から彼が呼吸不全で突然死になつたと知られた。それは余りにも唐突な知らせであつた。あのよつた事件の中でも奇跡的に助かつた人という思いもあつてか、彼の死が信じられず、悲しみより驚きのまゝが先であつた。

私が病室を去るとき、彼は弱りきつた体を部屋の出口まで運び、別れ際に言つた。

「きっと、きっとですよ、先生」

あの余悸の言葉が、彼の遺言でもあつたかのように私は思えた。

どうぞよろしく。

東京都文京区本郷2-1-1
順天堂大学医学部

(公衆衛生学)

つ何も語つてくれなかつた。

話は羽田沖事故の前に遡るが、その晩運航乗務員宿舎である福岡東急ホテルの一室で、彼は、羽田から一緒にフライトして来た片桐機長の今後の処遇についてひじく悩み苦しんでいた。

羽田を出発する前、日本航空羽田オペレーションセンターにある国内線運航乗員部の会議室で、部長と副部長四人、そして彼の六人で会議が開かれた。

会議の議題は「体調が悪い」のではないかなどと、乗員仲間でいろいろされやかれている片桐機長の処遇に付いてであつた。

副部長の一人は、最近、成田モスクワ線で片桐機長のフライトチェックを担当したY機長だった。このフライトチェックの際、片桐機長が「乗員の命」ともいわれるフライトバックをホテルに置き忘れた」となど彼は披露した。

また、通常は、よほどのことが無いか

きつ乗員はキャンセルしない「フライ」
「エック」だが、片桐機長は体調が悪く、
の一言でキャンセルしたことなど、当時、
仲間内で取りざたされていた同機長の奇
異な行動も披露されたのである。

結局この会議で、「明日、夕方に出発す
る福岡行きの片桐機長のフライトに同乗
し、機長の機内の様子をモニターするよ
う」と彼は命じられたのである。

また同機長の「技能チェック」について
は、M機長が福岡から帰った翌日の羽
田、札幌便で行つことが決められた。
当時、彼は航空機関士としての職務の
他で、国内線運行乗員訓練部教官を兼ね

ていた。それゆえ、運航乗員の職場復帰
訓練の一環として、片桐機長の復
帰エックを引き受けたことになった
のである。

夕闇の中で明るく照らし出された飛行

機の走行を示す灯の間を DC 8 はキ
ーンと 2 つ金属音をたてて地上を離れた。
夜七時に羽田空港を出発した DC 8 は
順調に、さりげなくエンジン音高くして上昇
をつづけた。ノクピットでは、機長が右
側、左側には副機長が座り、機長の後ろ
に航空機関士の彼が座っていた。

東京の夜空の闇の中を機体は急角度に
上昇しつづけた。そして、高度六千フィ
ートに達して左に大きく旋回した。その
時だった。

突然、機長が操縦桿を前に倒したので
ある。飛行機は上向きの状態から急角度
で下向きに頭を突っ込んだ。上昇から急
に下降に転じたその動きで、彼は危険を感
じ、瞬間に飛行機は墜落すると思
った。

た。長年業務してきた彼だが、これほど
恐ろしい思いをしたことは一度もなかつ
た。と彼は語つた。あたかも急角度に落
下する遊園地のジップ・ローラスターの」
とく奈落の底に落ち込んで「行くよ」と思
われたのだった。

彼は、大声で「ワインディングレベル、ウイ
ングレベルにするんだ」と叫んだ。ウイ
ングレベルとは、飛行機の機体を地平に
平行に位置させることである。

叫びながら彼は前に座つて居る機長に
目をやると、なんと操縦桿を握つたまま
放心状態のようだつた。すぐ目の前には
夜空に明るく輝く東京タワーが迫つてき
ていた。

彼の大声に機長はよつやく、我に帰つ
たのか、操縦桿を手前にひき、機体はや
つとワインディングレベルにもどつた。東京タ
ワーへの衝突は危うく回避でき、墜落の
大惨事を免れたのである。その後は、通
常の操縦が行われて飛行機は午後九時に
福岡空港に無事着地した。

山之内 照雄

曾さまどグラスを傾け、楽しく過
ごしたいと思います。

東京都小平市仲町241-16

(整形外科)

スイスの若い女性にモ

オバア？ お婆？

隅 坂 修 身

にわか画伯のスケッチ旅行

関西空港の帰国ゲイトを出てすぐ、重い旅行カバンを預け、宅急便で送るために、しゃがんでチェックしていた。その我が輩の頭上より「オバア」と声をかけられたものだから、びっくりした。「お爺」なら理解できるが、それに、この顔には、一週間分の無精ヒゲもあり、女性と間違はずはない。しかし、「うちの女房にやヒゲがある」と歌われた歌もあり、若者が知らない程だから、「うちのお婆にやヒゲがある」になつているかもしれない、まあいいかと、「お婆」と返す。

これに対し、オバアとくる声の先は、隊列を組んで通り過ぎる、制服姿の肌が白くて鼻の高い人達からだ。その予想が

当たつたことがよほど嬉しかったのか、ワインクしたり、手を振りながら、「オバア」と去つて行った。

フランス航空の乗務員であつたが、一件

落着

実は、乗客の寝静まつた前夜、我が筆

は、手持ち無沙

汰で退屈そつに

しているスチュ

ワーデスの慰問

をして、そこに

居合わせた男女

の乗務員をモテ

ルにして描いた。



④スイスのヨングフラウたち ⑤世界最高峰のポストヨングフラウヨットホより投函したハガキのスタンプに3,454mとあった

赤ワインとチヨコレートを使い、ポラロイド（日本製の小さなのが珍しい）で絵の所望をかわした」とが、彼等の印象に残つたに違いない。目聴く見付けて声を掛けてくれたのだ。

ところで、このエアーフランスに搭乗したのは、スイス旅行の帰りであつた。南スイスには、アルプスで最も完成された名峰といわれるマッターホルン、それにアイガー、メンヒそしてヨングフラウ

なじが連なる。

マッターホルンが昔は「魔の山」と恐れられ、誰ひとり登らなかったらしい。その谷の奥の、自然四足の塞村にすぎなかつたツェルマットも、1865年にイギリスのエドワード・ワインパーの初登頂で、両者は有名になった。今では、スイスでも人気ナンバーワンを争つほどである。その山の形は、正に丞先そのもの。これは、なにを美き刺し空に向かつて現れたか？ 天候に恵まれ山はよく見え、その丞先を凝視しながら歩く。

ヨーロッパで一番標高の高い鉄道駅（3454m）ゴングフトウヨウホ駅より氷河に出て、ひとりで一日ぶらりしてみると、結構賑やかだ。しかし、我が輩以外に、絵を描いている物好きな人間は見付からず、8月初旬とここのに、雪まで降つて水をさす。

スイスには山だけではなく、18世紀よ

り時計が止まつてしまつたような村、ソリオがあつて一日間、イタリアから再入

国しても描く価値はあつた。入国には再が付くのに、時間や人生には再が無いよつた。

例えあつたゞ 貴方なり……

（鳥取県西部医師会報 No.148から）



スイスの国旗は赤地に白十字 ツェルマットの風景は

古代エジプトのオベリスクを思わせる神秘的で魅惑的な山である。村人には永らく「魔の山」と恐れられ、誰ひとり登らうとはしなかつたらし。アルプスの登山史上、最高峰のモンブラン登頂に遅れることほぼ80年、登頂不可能と思われていた山も、1865年に遂に成功した。医学分野でも、それまでに出来なかつた遺伝子解析など多くのことが、今では可能となつてしまふ。

また、ヨーロッパに見える支柱にネズミ返しのある穀物小屋の、ネズミの被害を未然に防ぐという思想は、医療分野でも言わざもがなである。

我々が現状に安住してしまつのは怠慢か、広い未知の世界に「赤ひげ」の目線で飽くなき探求をしていくべき、新たな難問も見えてくるが、未来も開けていくであつて。

（鳥整会誌 第24号 平成20年12月 表紙絵の言葉から）

『迷える子羊』

マッターホルン(4478m)は南スイスに位置し、アルプスで最も美しく

神学博士から大変換

医師シュヴァイツァーの獻身

海老沢 功

シュヴァイツァー博士は熱帯アフリカで、現代医療に恵まれない現地人を対象に医療活動を行い、一九五三年ノーベル平和賞を受けたことは、良く知られている。彼はまず哲学と神学の文科系の学問を修め、趣味として高校生の頃からオルガン演奏を学び、大学在学中はフランスで著名なパイオルガンの奏者ワイドー教授について勉強した。

彼は牧師としてだけでなく、パイオルガン奏者としても充分に生活できる程に生長していた。事実、彼がヨーロッパ各地で行ったオルガン演奏回数は、今生涯で計四八〇回に及んでいる。

その彼が三十歳を過ぎてから、医師になる決心をしたため、まず理科系教養課程三年と医学部の四年、計七年かけて三十七歳で卒業したことは、あまり知られ

ていない。

彼は現在フランス領となつてゐる旧ア

イツ領アルザス地方のギュンスバッハで、牧師の長男として生まれた。そのため、

哲学と神学を学び、神学博士の称号と

牧師になる資格を獲得した。その彼が聖書に出てくる乞食ラザロの物語を引用し

て、大変換を決心するに至つた。裕福で

何一つ不足するものがない金持ちの家の

前の道端に、乞食のラザロが居て、あの

金持ちの食卓から落ちこぼれたパン屑で

も良いから、恵んで欲しいと願つていた

といふ話である。

これは現代医療に恵まれた自分達ヨーロッパ人を金持ちに例えると、現代医療に恵まれないアフリカ人は乞食のラザロである。熱帯アフリカの医療事情は現地で活躍している宣教師から、牧師である父の所に届いた書簡を見て彼に知らされた。アフリカ人に多いヘルニアに罹患する、ヨーロッパであれば外科手術により容易に治療できるが、熱帯アフリカで

は腸閉塞を起こし、腹痛に悩んで死を待つよりも他はない。

そこで彼はフランス系の宣教師がいる

熱帯アフリカ赤道直トのガボンに行き、

医療活動をしようと決心した。この直モ

大学の医学部長に当たったといふ、すでに

神学博士の称号を持ち、牧師としても

オルガン奏者としても充分に生活できひ

彼が、医学部に入りたいと言に出した。

そこで医学部長は、シュヴァイツァーの

頭がおかしいのではと思ひ、精神科の教

授に相談したことが、後日明らかにされ

た。

彼が医学部の全課程を終つするには、計七年かかる。彼はすでに三十歳に達しており、七年間の生活費も稼がなければならぬ。また彼の婚約者は著名なユダヤ人の歴史学者フレスラウ教授の娘であり、ヘブライ語を含む七カ国語をマスターした才媛である。彼女に彼の意向を告げたところ、彼女はそれでは自分は看護婦の学校に入りその資格をとるから、一

緒にアフリカにつれて行つてくれと申し出た。

後に両者は結婚したが、結局彼は規定に従い、教養部と医学本科の計七年を経て医学部を卒業。その後、パツツール研究所に通つて、熱帯医学を学んでアフリカに旅立つた。彼の妻は、シユヴァイツァーがアフリカで医療活動を行うのに必要な医薬品、手術器具など一切の調達をした。

彼はフランスのボルダーから赤道直下のガボンに向けて出航したが、船中で熱帯地方滞在歴の長い医師に遭遇し、熱帯医学の実際について、かなり深く学ぶ機会があつたと述べている。現地のフランス領植民地ガボンのランバレネに到着してみると、住居は椰子の葉で葺いた粗末なもので、電気さえない環境であった。飲料水は雨水を濾過したものである。

患者は医師がいるという情報を耳だよりに数十kmを徒步で來たり、なかには家族全員をつれて來る者があるので、彼等の宿舎まで造つてやらねばならない環境にあった。

やつと仕事が軌道にのり始めたとき、第一次世界大戦が始まつた。彼の国籍が敵国のドイツであるため、捕虜収容所に入れられ、はじめはアフリカについてフランス本国に送還された。

そして途中でアーベラ赤痢に罹患、これは手持ちのエメチンで抑えたが、南フランスのプロバンス地方に移動されてから、微熱がでるようになつた。後日、自國に送還され、から右上腹部の疼痛を覚えるようになり、自らアーベラ性肝臓病と診断した。

そのため、自宅から最寄りの駅コルマ一まで、約一六kmの道を妊娠中の夫人に付き添われて徒步で行き、そこからシコトラスブルグの大学病院に行き、緊急開腹手術を受けた。一回の手術で完治せず、再手術を受けている。これにより完全に回復し、第一次世界大戦が終ると、まもなくアフリカに再出発して医療活動を

はじめた。

彼はアフリカでは一般内科的診療の他に外科手術も担当したが、アフリカ睡眠病など、現在でも満足な治療薬がない患者に接しては、ただ自然の経過をみるだけしか方法がなく、現代医療の無力さを痛感したと述べている。

彼はノーベル平和賞で受領した賞金で現診療所の他に、オゴウエ河の対岸に敷地を購入、病棟の建設に取り組んだ。

第一次世界大戦後、医学会総会が東大医学部精神科の内村教授の主催の下に開催された。その時内村教授がシユヴァイツァーを招請したが、遠路のため出席を断られた。彼は飛行機が嫌いであったと言つて、シユヴァイツァー病院内には小さな図書館があり、そこには同病院で働いたことのある野村実博士の著作など、日本語の本が多数並んでいた。

『引用文獻』 海老沢功著『素顔のシユヴァイツァー』近代文芸社（東京）

中 村 雄 彦

書評 田辺 功著 「心の病は脳の傷 うつ病 統合失調症 認知症が治る」

2008年12月に出たこの著書は2

009年1月現在、既に重版を数え、Amazonの本の総合ランキンで11位と驚異的な売れ行きで、私などが今更申し上げるまでもないのだが、著者からわざわざ贈呈され、一読してあまりにも内容が素晴らしいので秃筆を振るわせていただくこととした。

著者田辺功氏は東大工学部航空工学科卒で、長らく朝日新聞の医学・医療担当の記者として活躍され、現在はフリーの医療ジャーナリストとして医学、医療を多方面にわたって学識豊かな歯切れのよい極めて適切な解説で、多くの読者を有する方である。

既に「漢方薬は効くか」、「エキメント医療危機」、お医者さんも知らない治療法教えます、「40才からの頭の健康診断」、「脳ドック」など20冊を超える著書があり、一作ごとに斬新をあげられている著名な方でもある。

本書は放射線科医の東北大学名誉教授

松澤大樹博士の話を聞くとなつていて、筆者の田辺氏が松澤博士の論文や直接の話を詳細に辟て正確かつ、大変にわかりやすくまとめたもので、医師は勿論素人の方が読んでも明快で実に面白く、一気に読んでさせる好著である。

松澤博士は統合失調症の患者は必ずしつ病を合併していることに着目し、「混合型精神病」と二つ病名をつけた。そして認知症は脳の萎縮とは無関係として、またアルツハイマー病のアミロイド説は誤りで、多数の患者の脳のMRIの画像からアルツハイマー病は脳の扁球体の傷と同時に記憶中枢の海馬の萎縮によると結論

治療としてはセロトーンの重要性を説き、バナナをはじめアミノ酸のトリプトファンを多く含む赤みの魚、大豆などを多く摂取し運動をする」とを勧めた。

著者田辺氏の述べるよつて、松澤博士の業績は従来の定説を覆すもので、ハーベル賞級のものである。

田辺氏は大変な勉強家で、新刊の医学雑誌の論文のほとんどを読みこなしておられ、「医療にもつと科学」と常に心がけられ、これまででも社会常識や学会世界の常識とかけ離れたことも出来るだけ取材し、ユニークな記事を書いていた。従来の大新聞が載せにくかつた記事もあつたと思われる。特に「非科学の最たるものは精神科」とおっしゃる「従来の非科学的で不可解な精神医療はいずれ一変されるべきで、松澤博士の発見はそれがきっかけになる」と書いておられる。田辺氏のいわれる様に、今までの定説をひっくり返す、あるいは全くいわれていなかつた未知の疾患が認められるのは容

易ではない。

私事だが、田辺氏によつて朝日新聞全国版に掲載していただいた私がドイツ語で書いた世界初の疾患に「シイタケ皮膚炎」があり、英文で「タバコ耕作者の皮膚炎」がある。特に今では海外での発表例も数多くみられ、昨年出版された講談社の「皮膚科診療カラー・アトラス大系全8巻」に私自身が執筆した「シイタケ皮膚炎」は、現在のように広く知られるまでには発表してから30年かかっている。横並び、エビデンス中心で安全第一の学界では新しいことが認められるのは難しい。私は上記疾患を含めて10件ほど日本初の疾患・事項をこれまで発表し、認められてきた。

軽井沢万平ホテルで（昭和47年）



かうとした基礎のある学問にもとづいた
飽くことのない新しいことを通つての執
拗な探究心の結果である。繰り返すが本
書はその意味で、正に貴重な一書である。
松澤博士の貴重な御研究の益々の発展を
お願いするところでもある。著者田辺氏のこれ
をお願いするところでもある。

表紙の言葉
村上 泰
(京都市北区)

「ボケ」

薔の美しいボケは、平安の昔から
地植や盆栽として多くの人々に愛で
られてきた。

花言葉を調べると、「先駆者」、
「熱情」、「妖精の輝き」、「平凡」
とある。

3月中旬、春の花々に先駆けて小
豆つぶのようにかわいらしい薔をつ
けると、それらがみると膨らんで
開きかけた美しさは、まさに妖精の
輝きと言えよう。

我が家のボケは、今年も沢山の薔
をつけた。魅せられて思わずシャッ
ターをきつたのだが、作品は花言葉
通り「平凡」になってしまった。
(第38回日本医家写真展出品作品)

から益々の御健筆の冴えを切に期待す
る。

温泉街での野球の素振り

市 田 隆 文

勤め帰りの夜、温泉街を回って帰る道すがら、ふと旅館の前でどこの野球部員十数名、バットの素振りを行っているのが目に留つた。夕食を終え、就寝前に気合を入れて、明日の試合のためにバットの素振りを大勢で声を掛け合つたりして、あるいは黙々と反省でもするかのようにバットを振つて、30年前とちつとも変わっていない。ほほ笑ましくそして少し昔を思い出させる情景であった。

医学部の運動部活員が一番憧れる大会が東医体（東日本医科学学生体育大会）である。今も東医体、西医体、全医体といい合ひ、学生が練習で来ると、「何部で運動しているのか？」そして、「東医体ではどりまでいた？」、「優勝は何回ある？」などよく尋ねる。また、学会、研究会

で知り合つた医師、研究者との懇談で、スポーツ、部活（ぶかつ）はなんだい？」、「東医体でどりまで勝ち進んだ？」、「東医体でどうして勝ち進んだ？」など、突然数十年来の旧知のよつに話が盛り上がることが多い。

先日も、ある整形外科の集まりで、専門外の知識を得たいとのことで肝炎の講演を行つた。その後の懇親会で、あつまりの中心の整形外科の教授とじつに30年以上前に準硬式野球で対戦していたことが分かつた。一瞬にして、30年前の状況が脳裏に蘇つた。あの時の、あの打球、スクアまで記憶が蘇り、ささかその教授が在籍していた東京大学が新潟まで遠征にきて、前日の宴会と翌日対戦したこと、も、鮮明に思い出し、話は止まることを忘れてしまつたかのようであつた。同時に懐かしい名前がどんどん出てきて、あたかも野球部OB会の様相を呈してしまつた。

30名が同じ旅館に逗留していた。高見山が歩いていると、それは背中に針を立てる山が歩いているよう、あつてに取られんばかりの大きさであった。

ある時、風呂場に入ると、前の山を頂点にすれば、一番上の相撲取りというのか、お弟子さんが大きな白パンツを脱いで入ってきた。年の頃は、われわれ学生

が群馬大学医学部主催の東医体新聞に載つてたのを思い出し、弘前大学主催の特別講演でその記事とスクアを講演最初のスライドで披露した。あの懇親会で大いに受けた記憶も新しい。

さて、バットの素振りであるが、それは昭和46年の夏の東医体のことである。前年度の札幌で初優勝したわれわれ新潟大学医学部は、東北、仙台の地に乗り込んだ。勿論、一連の優勝を目指してである。緊張して乗り込んだ宿舎が大きな和風旅館であった。ふと、同宿の人たちを眺めると、それは大相撲の一向で、当時の大関前の山を筆頭に、高見山など、総勢20人、30名が同じ旅館に逗留していた。高見山が歩いていると、それは背中に針を立てる山が歩いているよう、あつてに取られんばかりの大きさであった。

より若く、本当に可愛い顔をした若者であった。かれにとつて風呂場は、上下関係で大変な相撲社会で一番ほつとする時なのか、かわいい顔でお風呂に入つてきた。そして、おもむろに凍つて硬くなつて、いたアイスクリームを湯船で少し溶かして、美味しそうに食べ始めた情景が未だに思い出される。大きなからだが、湯船に浸かり、小さなアイスクリームを湯で周りを少しずつ溶かしながら、小さなスプーンで食べている姿は微笑ましく

もあり、「頑張つてくれ」と励ましたくなる情景であった。

僕たちは夕食後

明日の相手の分析を中心

にミーティングを行い、その後、必ず各自バットを持って宿舎前で素振りを

することが日課となつていた。掛け声を合わせて、20本、50本、100本と素振りを行い、その後入浴して就寝するのが決まりであつた。そんな折、相撲の中堅若者が出てきて、「ちょっと貸してみ

な！」と声を掛けってきた。バットをぶん

ぶん振りながら、「それほど重くなつた」「あんたたが、どこから来たのかね」などなどひと時の和氣あいあいのムードが心地よかつた。

厳しい上下関係のある社会であることは知つてゐるつもりであつたが、どうしてなく若い衆とこんなことをしていて、上の大関あたりに叱られるのではないかと思つて、躊躇しながら話つ合つて、いた。

そんな時に大関前の山も出でてきた。一瞬の緊張感があつたが、「俺にもかよつと貸

世界的に有名な東大眼科教授石原忍先生の書「好学樂道」の色紙を先輩に見せてもらつて、その複写を額に納め毎日眺めている。専門の医学の他に何か趣味を持つてといふ意味か。

東京都世田谷区東玉川1-19-7

(内科・熱帯病)

海老沢
えびさわ
いさわ
功

世界的に有名な東大眼科教授石原忍先生の書「好学樂道」の色紙を先輩に見せてもらつて、その複写を額に納め毎日眺めている。専門の医学の他に何か趣味を持つてといふ意味か。

東京都世田谷区東玉川1-19-7

(内科・熱帯病)

してみな」と言つて、軽々とバット数回振り、「軽いね」と言つたのを見て、周り全員の顔が弛んだのを覚えている。バットが腕より細かったのも鮮明に覚えている。

何気ない旅館前の野球部員の夜の素振り風景が今の世の中になつても変わらないこと、なんだかほつとするとともに、一瞬にして30年以上も前の情景を思い出させてくれた、嬉しいひと時であった。

その東医体では、僕はピッチャーで2勝挙げ、クリアアップを打つて、もちろん優勝、連覇した。決勝は前年度、われわれに3連覇を阻止された北海道大学が相手で、最終回に逆転サヨナラ勝ちで一連覇を果たした。あまりに嬉しくて、その夜、仙台の西公園の伊達政宗公の前の噴水池で、裸になり大騒ぎをして、危うく警察沙汰になりそうになつたのは、今でもわが野球部の語り草にもなつて、いる。

何年たつても野球からなかなか縁が切

れない。整形外科学会、脳外科学会が

い。

年に一回の学会総会の後に懇親の野球大

「完、いやいや肝で候」

会を楽しそつに行つてゐるのを聞いてい

た。とある日本肝臓学会の演題選定委員

会で会長が、一つ学会の田玉が欲しいと

懇親の席で意見を聞いた。即座に「学問

以外で野球東西対抗を行つのが宜しい」

駆巡る

秋 元 光 博

と冗談交じりに提案したのが少しお酒の

入つたわれわれであった。

八年前から日本肝臓学会では年に一回、秋の肝臓学会大会に合わせて東西対抗野球を行つてゐる。その間に出しつべが僕

ともう一人東芝病院の二代後治研究所長

で、彼は最初に述べた東大鉄門会、野球部の出身で、新潟遠征時とその年の東医体で対戦している間柄である。この年に

なつてもまだ野球をやつてゐるのは、こ

れら青春の思い出が身体に沁みついてい

るのかもしれない。

そして最近、田塊世代に野球少年だった人が多いのにあらためて「氣」が付くことが多くなつてきているのが、はたまた面白

十六年にはより深い層（下層）から動物や人骨が一緒に出土するのではないかと期待されたのである。このなればナウマンゾウが生息していた時代に人間が存在していたがどうか、ということなのである。

ナウマンゾウへ惟いは

本州最北端の尻屋崎は石灰岩の山として知られ、太平洋戦争前から、石灰岩の採掘によつて、今から万を数える時代の哺乳動物であるナウマンゾウ、トロ、オオツノシカなどが知られている。

出土場所は太平洋側の尻労地域と津軽海峡に面したムシリ島の対岸一帯からだが、平成十五年には慶應義塾大学文学部民俗学・考古学研究室（阿部祥人教授）が尻労の安部洞窟の発掘調査を行つてい

る。

なにせ石灰岩の礫のため発掘は難渋し

たようだが、第一層から小動物の骨片、厳しい自然をたくましく生き抜いてきた北方漁民の心の優しさに素直に感動し

る。

科學的論理的でないと批判するより、

も居たかも知れない。

称賛し、「こんな風貌の下北半島を訪ね、それぞれの風土、歴史、民話に触れ、その底にある歴史的背景に准いを馳せる」とは、誠に楽しいところのが実感である。

寂しくて人は焚き火の輪に入る

除夜の鐘わが身を裁く音ならむ

「ニッポニウム」「ウラン」

惟いを馳せる

酸素や酵素などの元素の仲間には、ア

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

新 谷 周 三

今回、太学の同級生の津谷先生の紹介で入会させていただきました。茨城県南部の救急基幹病院ですが、昨年7月に院長になつたばかりです。よろしくお願ひします。

茨城県取手市本郷2-1-1

(神経内科)

メリシウム(アメリカ)、フランシウム(フランス)などの国名がついたものもあるが、かつて「ニッポニウム」と云つた頃の元素も存在した。後に第四代東北大学総長となつた小川正孝が一九〇四年から

のヨーロッパ留学中に、日本人としては初めて新元素を発見した。しかし、追試験での確認で、一度は元素表に採用されたニッポニウムの名が姿をけじつてしまつた。

ところが、小川の発見から焼く九〇年後、新たな事実が判明した。小川は新元素を当時未発見だった元素表の43番に該当する元素として収表したが、実は現在レニウムと名づけられている75番元素だったことが分かったのだ。

ニッポニウムの発見時点では、まだ75番元素は未発見であったので、ニッポニウムの名が構成まで残るチャンスは大いにあつたわけで、残念なことであつたと惟ひ。

ところが、小川がニッポニウムを発見した研究室には、ドイツのオットー・ハーンといつ科学者も滞在していた。後に92番元素のウランが核分裂することを発見し、ノーベル化学賞を受賞する人物である。

ウランは一七八九年に発見され、十九世紀にはその研究と利用が一気に進んだ。一九〇五年にはアインシュタインが、核分裂前後の物質の差すべてがエネルギーに変わるという理論を発表し、一九三八年にオットー・ハーンがこの核分裂を確かめ、一九四一年にはイタリアの物理学者エンリコ・フェルミが世界初の原子炉の運転に成功したのです。

原子力発電は、こうした著名な科学者のほか、多くの先人たちが長年にわたり力を合わせることによって誕生したのだ。ちなみに日本では、一九六二年の十月一十六日に初めて原子力による発電に成功し、その日は「原子力の日」と定められ

詩吟の本より

大 黒 勇

平成元年五月四日 第七十八回文京區吟劍詩舞道大會にて 吟道館流曰白吟詠

會員として 荊妻が四人合吟の一員として出演した時の詩が赤馬ヶ關と題する詩であった。そこで吟道館流の教本を取出して見た。いつかも述べた様に、今はそのまま日本流に吟じ得る様に流し書きになつて居るので、次の如く復文してみた。

長風波浪一帆還 碧海遙回赤馬關

二十六灘欲行盡 天邊始見鎮西山

平起式十五刪韻

作者は肥後熊本藩の儒者なりじ。大蛇は幕府を指す。徳川は松平姓なので老松に警へたのである。要するに倒幕運動の容易には抄らぬのを歎いた詩なりと。但規則は その場合上二字は平平とすべきをこれは平仄になつて居る。されど起承結の三句は正規のままである。

作者は霧雨伊形質。肥後の詩人で熊本の學館に學び學師になつた由。広辞苑によれば赤間關（又は赤馬關）は下關の古稱。鎮西は九州防衛の爲大宰府に在つた鎮西府、即ち九州は作者の故郷。三十六は多くの意で（頬戸）内海の早瀬の意。

次の一編は先考が時々吟じて起句のみが今も耳に残つて居るので、採上げてみる。

曉行

蒙霧月田右門

残月滴露濕人袂 晓風吹鬢覺秋冷

忽驚大蛇當道橫 抜劍欲斬老松影

（仄で押韻）

竹枝詩を載せる。

山桃花紅滿上頭 蜀江春水拍山流

花紅易謝似郎意 水流無限似儂愁

平仄式十一尤韻

エイと同韻に見えるが、承句と結句の字由は上聲、十二梗韻で仄韻であり、筆

者は仄韻詩に就いては全く知らないから敢て觸れない。ついでに述べれば起句の袂は音ベイで去聲八叢韻。

次は菊水流三十周年記念公演に、荊妻が群舞の一員として演じた春嶽松平慶永の偶成を採上げよ。

眼見年年開化新

研才磨智競謀身

翻愁負俗流浮薄

能守忠誠有幾人

仄起式十一真韻

研はみがぐが平、すずりが仄、磨はみがくが平、いしうすが仄、知は平だが智は仄。

次に荊妻がよく縹々して居た劉禹錫の

竹枝詩を載せる。

花は散り易い、男心の移り易いのに似私の愁は盡きないの意。

悲劇の人生の生涯

青山 六 弥

日露戦争が終わって十五年後の大正九年（一九一〇）、私は農家の六男として生まれた。母四十五歳、母乳はあがり、コンデンスマイルクの缶が戸棚に多く積まれていたのを覚えているから四、五歳まで

は飲んでいたと思われる。昭和一年、我が家に電燈が点いた。その明るさに驚嘆した。それまでは石油ランプで火屋がすぐ黒ずみ、毎夕、掃除するのが役目だった。小学生時代は、一生を通して最も自由で、元気溌剌、痛快な時で、夏は沢蟹とり、秋には山葡萄やあべびとり、冬は手製の竹スキーで楽しんだ。雪が深く（福島県阿武隈山地）町の学校まで3kmの通学は大変だったが、父兄数人が先導してくれて助かった。六年生の時、学芸会で模擬国会をやり、総理大臣を演じ、演説

が音吐朗々と上出来だったと褒められ、嬉しかった。議長のつけひげが落ち、付け直したら又ボロリで大爆笑。演出の渡辺先生は絵が得意で、ヤレバ出来ルと言うのがモットーであった。

中学校は三春町にあり、汽車通学で最寄のT駅まで3km程で、冬が難儀だった。そこで、一年生の冬期だけ下宿をしたが、五年間無欠席であった。中二の時、父が食道癌で亡くなつた（享年六十四歳）。当方には一大ショックで、依怙地になり、農作業（特に夜の）を嫌がり、家督を継いだ兄と不仲となり、五年生の修学旅行には参加できなかつた。費用のことで争つた爲で心の傷として長く残つた悲しい想い出の一つである。

一年生の二学期に教頭による英語の課外授業があり、イソップ寓話、ロビンソン漂流記など発音を重視した教えを受けたが、今でもかなり暗誦している程度付いたことは確かだつた。後年、先生は奈良の軟弱中学校長を最後に退官され

た。実はこの渡部の彦先生の娘が、今は亡き妻稀代子で、仲人はかつて五年生担任のI先生であった。

中卒後、糸余曲折はあつたが、兄嫁の叔父に当たる開業医、青山重一郎の養子にきまり、昭和十四年、昭和医專に入学した。大戦前の緊迫した情勢の中、皆真剣に勉強した事は確かで、授業を欠席する者は極めて少なかつた。解剖学実習は後で東大教授となられた人類（骨）学の大冢 鈴木尚先生指導で、筆者が下肢筋のスケッチをしていたのを見て、「よく描けているね」と声をかけられた事があつた。また課外授業でドイツ語を習つていたのが縁で、ドイツ大使館（オットー大使）の音楽会に招待され、大使夫人らと「モーツァルトのタベ」を楽しんだ事もあつた。

一年の時、母が亡くなつたが帰郷しなかつた。家事一切よく出来た立派な母であつた。卒業後は短期現役軍医となり、昭和十八年一月十日、満州の東方ソ連

国境に近い虎林の師団司令部付きとして赴任した。同行のY君と一緒に強かつた。終戦直前は安東市近くの歩兵部隊付きでソ連軍の武装解除を受けた後、貨車に乗せられ一ヶ月もかかってソ連国境を越え、バイカル湖の南一百km程のバイノゴル收容所に到達した。それから三年の抑留記は本誌に発表済みなので割愛させて戴く。

復員船はある日本海大海戦で「敵艦見ゆ」の発信をした信濃丸。これが最後の奉公との事だった。昭和二十三年八月三十日、舞鶴で復員となり、翌日故郷常葉町に帰つて養母をはじめ親族と会つたが、長兄、養父重一郎、義弟、義妹が亡くなっていた。養父は昭和十九年十一月二十七日に鬼籍に、肺炎だった。奇しくもわが医師免許証交付日は同じ二年前である。

肝腎の医院は東京より来られた医師が診療をされていた。すぐ交代とは行かず、当方は郡山市の太田病院内科に勤務

させて戴く事になり、もつ少し研修を続けたいと思っていた矢先、一年で帰り開業する破目になつた。まだ健保が制度化されていなかつたので、八年間で多くの未収金があり心底から嫌になつた。妻子孝が大学卒業後三年経つたので、昭和三十一年四月、交代する事がきまり、再び太田病院に復職させて貰つ事が出来、満足した。

昭和十五年に前述の稀代子と結婚し、一姫、太郎と子供に恵まれ、精一杯働いた。当時肺結核が多く、熊谷元蔵（元東北大綱長）博士が来られ、個々の実例多数に就いて懇切な指導を戴いた。一部県の学術大会で症例報告もした。病院の外来患者が多く、一日千五百人程で、内科検診も多かつた。

また同僚六人とグルタチオンの解毒に関する動物実験を、昭和医大薬理学角尾教授指導で、診療終了後の夜、十一時頃

まで一年間続けたが、マウス及び鶏卵（胎子）の管理も難しかつた。論文完了まで三年余を要した。学会発表後、つて学位が授与された。

昭和四十一年には世界一周の旅を、同僚と一緒に病院視察の名目で楽しんだ。夜の診療依頼なく、安眠が出来、生涯で一番樂しかつた二十二日であった。昭和四十八年、付属鶴川病院長を命ぜられ赴任町田市民となつた。第一次救急病院の指定（月）回位、休日（内科、小児科）を受け、当口は多忙を極めたが、軽症が八割で、また重症で当方では無理な患者を近くの北里病院まで救急車に同乗し搬送した事も数回あつた。医師不足で当直を週二回近くした。

昭和六十三年には妻稀代子を隣邊で亡くした（享年六十歳）。三年後院長を辞任、東京都医特老ホームの非常勤を十二年、平成十八年三月を以つて医業から退いた。プール通いや絵を描く時間が多く満足していたが、平成十九年一月に第

一腰椎の圧迫骨折をした。入院の適応でないとの診断で車で通院。三ヶ月後にはプールにも行き、今に至ったが脊椎前弯で長い歩行は不能。そこで一大決心をしてこの一月、自動車運転免許更新を果たせた事は、今後の生活の幅を向上出来る定期的な快挙と喜んだ。

夜間は運転しない、駐車が楽に出来ない店などには行かない。町田市民アーモード九時、楽に行け駐車場係りも親切、泳ぎ仲間は十人余り、休み時間の世間話

は「の上なく樂しく笑いが絶えず最高の癒しだ。水中歩行」十分、クロール、背泳混ぜ五十回をゆっくり一百回を完泳するのがノルマ。月一回、十五回、「二口二口」の名で茶話会を会館食堂で催し、話題は政治や社会の動向、野球の話等いつも盛り上がる。

元教師、技師、歯科医、元会社員等の他、主婦一人で年齢は小生を除き65歳まで九時、樂に行け駐車場係りも親切、担当された方（主婦）で、宗吉（北杜夫）

先生の外来患者が多いとか、茂吉先生の命日の昭和二十八年（一月）十五日には、関係者一同揃って饅を食べる習慣が続いているなど、興味深い話題を少しづつ話される。先日、茂太先生の著書『茂吉とその周辺』他一冊を借用した。プールでは皆さんがこの老人を大切にして下さるので感謝に堪えない。今、食事は朝食が自炊、夕食のみ一階の長男夫婦孫と一緒にしている。消化の良いもの少量、卵田質は卵、魚、肉は十分（一日50g）、

（内科）

大坪公子

東京都世田谷区三軒茶屋1-21-5

採る様にし、風呂の掃除、洗濯など小ために体を動かし、プール行きのない日はカートを用い三十分近く散歩する。ブル行きは月十回位、いつまで続けられるかが課題。無理をしない心算でいる。いま、過ぎ越し方を省みると正に波乱の一生と言える。最も濃密な時間は、鶴川病院勤務の十九年であった。苦いカルテもあるが、若い半身不随の患者を寄生虫（アスペルギルス）に由る脳栓塞と疑い北里病院で確認され二ヶ月で治癒した例もある。また東大医師会主催の臨床医学研究会（春秋会）に約十五年間にわたり延べ数十回通った事は大変診療に役立つた。多忙の中、日曜日にアサヒカルチャーレッスンで油絵を学び画友が出来た事も楽しい思い出であるが院長在任中、最大の援助者とも言える妻を失った事は最大の衝撃で、仕事に精を出すのが困難となつて、つた事が悔やまれる。来年は八十歳たい。

「療養型病院」と「終末期

医療」とのかかわり

浜名 新

厚生労働省の「終末期医療の決定プロセスに関するガイドライン」（平成19年5月）には、「延命治療の開始・中止・変更などについて患者の自己決定を原則とする」、「医師の独断を避けるため複数の医療従事者によるチームでチェックし医学的妥当性・適正を判断する」、「患者本人の意思確認ができるとき家族と相談する」などが記述されている。

臨床現場で最も関心のある事項、「どのようなケースで「刑事责任」に問われるか」といった「臨床基準」は示されていない。

日本救急医学大会は平成19年10月、「人工呼吸器の取り外しを選択肢の一つとする」指針を決めた。また、日本医科大学では、「人工呼吸器を外すのは、個別ケース1)とに倫理委員会で判断する」といつて独自の指針で運用を開始。

終末期医療における「延命治療中止」あるいは「不開始」などについて、多くの病院での関心事は、生命維持装置の象徴である「人工呼吸器」をとりあげている。心肺機能は換気・循環機能保持に必須であるが、「水分・栄養補給」も基本的な生体維持に必須の因子である。

江口医師は第2の人生をある「療養型病院」へ就職して数年が経つ。現在彼は「療養型病院における終末期医療との係わりあい」を担当医として家族へ提示。理解させる努力をしている。入院時、家族と医療側（医師・薬剤師・看護師・介護士・栄養科・リハビリ科・医事課）との情報交換の場で、「終末期医療」の対応のことを説明・提案している。

「療養型病院」は、最終的には「終末期の医療」を担つております。

「終末期」とは、治癒不可能な病気（難病）に冒されている場合で予後的には数日あることは2～3ヶ月の場合、慢性疾患で急性増悪を繰り返して予後不良になるとある場合、老化現象とか脳血管障害で数か月から数年で死を迎える場合などを括します。これらの人たちは、その時々の急性期の肺炎、呼吸困難などの心不全、腎不全、吐血、下血、糖尿病悪化、癌の末期などで状態不良に陥つても、医療対応で何回かは危機を脱します。だが、「寿命」の終焉が近づけば、いくら治療・対応しても、心肺機能の回復が得られず、死が避けられません。

終末期に直面した場合、当院の対応と処置（経管栄養、静脈からの点滴、酸素吸入、バルーン留置、気管チコープの気管内挿管？、昇圧剤？、その他の処置）による「看取り」になります。看取りの場合、ベッドサイドで「アンビューバッグを用いた人工呼吸」、「胸の外側から行う心臓マッサージ」での「簡易心肺蘇生」を行いません。医学用語ではD.O. Not

Resuscitate (DNR)、つまり急性心肺不全に陥つても CPR (心肺蘇生) をしませんが、よろしいでしょうか……」

「終末期医療」あるいは「DNR」といわれて、聞きたくもない言葉を聽かされて表情を曇らせる家族が多い。

平成5年に長期療養目的のための「療養病床群」がつまれ、平成12年に「介護保険制度」が発足。療養病床群は療養病床と名称を変え、医療の必要性の高い「医療保険型」と介護を重視した「介護保険型」に分けられた。平成18年医療法の改正で平成23年末に「介護保険型病床」は廃止され、療養型病床は38万床から22万床に減り、新規に「介護療養型病床」が新設される。

平成18年10月から療養型病床に適用される「医療区分3・2・1」と「ADL」を運動させた「診療報酬の占数」が決められ運用されている。

さて病院は、機能の面から、慢性期型

の「長期療養型病院」と「急性期型病院（通常の病院）」に大きく分けられる。急性期型病院での診療報酬は「出来高払い」で、医師はできる限り治療・処置で患者を快癒、小康状態に導く。当然の対応といえる。担当医は、担当の高齢者患者の病状に対する継続治療の必要度

小康状態であるものの悪化・再発しやすい状況かを見極め、最適な受け皿の病院として「療養型病院」、施設として「老健・特養・有料老人ホーム・在宅など」を選択・紹介する。

一方、療養型の病院では、経営上の観点から、診療報酬の占数の高い、従つて重症度の高い、治療処置を必要とする医療区分3」と「医療区分2」の患者を積極的に入院させ、「医療区分1」の患者を敬遠する。故に、療養型病院では急性期型病院の「受け皿」として機能分担がより明確となり、治療・処置を要する患者が選別されて転院していくので以前より繁密度は増した。

病院であれ施設であれ、担当医師、ナース、S（言語療法士）は、患者の経口摂食について「困難」と評価すれば、患者の水分栄養補給をどうするか、大問題となる。「説明と同意」を経て、処置の方法を選択しなければならない。

管栄養には「経鼻胃管」、内視鏡を使い胃にハを開けて管を挿入する「胃ろうつ」、

開腹して造る「腸ろうつ」がある。一方、静脈経路として、手足の静脈、困難のとき鎖骨の下部の皮膚から鎖骨下静脈部の皮膚から内頸静脈、鼠径部の縫腸骨静脈へカテーテルを挿入し、「中心静脈栄養（CVP）」がある。

他方、「尊厳死」などの関連で、本人あるいは家族の要望で水分栄養補給の「延命処置」を「中止ある」は不開始」とする場合もある。つる。

最近、江口が担当した、急性期病院からの新規入院患者15症例中、実に12症例に経鼻・経胃管（PEGは8症例）の処置が、2症例に中心静脈ポートが挿入

されていた。これらの処置は代表的な「延命処置」で、経管栄養の普及は日本の平均寿命の延長に寄与している（男79・1歳、女85・9歳）。

療養型病院でも嚥下・咀嚼機能が低下し、「経口摂食」が出来なくなれば、水分栄養補給をどうするか？「説明と同意」（ICU）の場面となる、「管」か、手足の「静脈」か、それとも「中心静脈」経由か。

江口の担当患者の場面で、ある家族は「管」栄養を拒否し、手足の静脈からの点滴のみを許容した。江口は今まで、全ての「延命処置」を絶った事例を経験していない。ナースで入院ファイアを支払っている介護人は、自身も高年齢で健康を心配するからである。自分の意思・言葉を相手に伝えられない、動けない全介助の人でも、水分・栄養が、管あるいは静脈経路で与えられれば、時々の感染症・心肺不全症・腎不全症・吐血や下血をクリアさえすれば、「寿

命の終焉」まで生き残り得る（生かされる）。この事実は、大昔では考へられなかつた現象である。

「本来の死」の状況とは、「ざわざわしない静かな場所で、口から食事を摂れない」こと、「口を湿らす程度にして、断食みくなれば、口を湿らす程度にして、断食みたいたな状況で、心肺停止」を迎えたであろう。だが、身内の苦労は並大抵でない。現代でも、「在宅」で「死」を迎える場面では、かかりつけ医あるいは「在宅専門」医による対応と処置があるにしても、自然の経過で、「看取る姿勢」にはじさかも変化は無い。医療経済からかなり安上がりである。

現代の病院での「病院死」と「在宅死」

とは随分かけ離れたものであらじ。この要因は、病院に入院すると、医師から「治療」といふことで、「生命維持」のための要請を、家族は受け入れざるを得ない。同時に、切羽詰った状況下で、家族の必要な願いから必要な「延命処置」を容認させられるからではないか。患者の「生命

を第一と考えて行動する医療人の習性（DNR）があらじ。

「尊厳死」に関する「コビングウイル」の本人自署の書類に、「延命処置の中止」の条項で、「医療側は承知しました」と、経口からの摂食・点滴による輸液あるいは管から水分・栄養を中止、あるいは不開始する「行為」を容易に実行できないだろ？「プロセス指針」を参照した準備が必要と考えられる。なぜなら医療側は「法的」に咎められないか心配するからである。

江口は以前、神経難病の70歳後半の男性患者を受け持つた。

神経内科専門医は、病状経過、進行した症状から「パ・病・連・患」と診断。患者は入退院を繰り返し、内服治療中で、身体の運動機能は徐々に障害。日常生活動作は制限・障害された。本人は「治らない病」を自覚した。

家族思いの患者は、意識清明のとき、

家族への負担が少なくなつた」「延命処置」を断る書面を自ら署名した。口から食事を摂れなくなり、家族は患者を通院中の急性期病院に入院させた。担当医は「リビングウイル」の書状から、手足の静脈から補液を注入する「延命処置」を実施した。誤嚥性肺炎を生じたが抗生素で改善した。入院期間が2か月以上になり、江口の病院へ転院してきた。

入院時、不確かな言葉で、意味は聞き取りがたく、理解されがたい内容で、右手の指に触れると強く握りしめて離さない。左上肢・左右の下肢は屈曲性拘縮となり、ADLは低下し、全介助の状態へ悪化していた。

妻はあるとき、「リビングウイル」の書状を差し出した。

『治らない難病ですので、「尊厳死」に準じて『延命処置』を全て断ります』

江口は、手足の静脈から「補液」で「延命処置」を継続。体は衰弱し、筋肉は弱弱しく、静脈確保は困難となつていて了。

ある日の午後、今後の「延命処置」の件で家族と面談する手はずであった。運悪く、その日の午前十時頃、患者は「急性心肺停止」状態で発見され、当直看護師は当直医に連絡、自らベッド上で「心臓マッサージ」、「人工呼吸」の簡易の「心肺蘇生」をおこなつたが蘇生されなかつた。「延命処置」を希望されなかつた本人にしてみれば、いきなり、胸をそんなに強くいぐい押せば、痛いじやないか、肋骨はボキボキ悲鳴をあげてしるさでもつ少しやさしくしてくれんか。おれの「書類」を見ていないのかね。突然、胸の衝撃にびくつくして、深い眠りを覚まされて苦笑したかもしれない。

医療人なら、当直の看護師の行為を当然の行為」と受け止め、非難はしないだろう。たとえば「リビングウイル」の書状があつたとしても、身体に深く染み付いた認定ははつきりせたに違いない。

江口は、もし患者は生存され続けていた場合、「リビングウイル」の書状の要請

を、「いついつ風に折り合つをつけるべきであったか?」「管」か、「点滴」かはたまた「延命処置の不開始」か、難しい選択を迫られたことである。

しかし、患者本人は、意識清明で判断力があり、強い意思表示で、自身、経口摂食を断り、管栄養・点滴による補液を断(た)ち、断食に入つて「自決」といつ「死」を全つする」とは、「尊厳死」の典型として「法的」に認められはしないで

平成18年7月頃かな「Y・A」といつ

作家は、多発癌で闘病され、病院から在宅療養に切り替え、「うつ」と云う作品を推敲されると、夫人のことをばく、首に埋め込まれた点滴ポートを引き抜き、「自決」された。そうである。言つなれば、「尊厳死」を完遂されたとも考えられる。だが、多くの人は、終末期に意識は不清明で混濁する。意識清明時に自署され

た「書類一枚」が残され、医療側と家族側は、結論を下さなければならない。その書類を最大限尊重するにしても、基本的な水分・栄養補給を注入するのか（段階的）不開始か？「完全な中止」か、もし補給するとすれば「管」か、静脈（手足からか中心静脈か）か？担当医單独で判断・実行すれば絶対されるに畏れもあり、既存の「プロセス指針」を参照して対応せざるを得ないのではないか……。（2009・3・吉田 完）

（精神保健看護学）

木原 深雪
き はい み ゆき

ここにちは、私は医療や保健の仕事を芸術も大切に生きてゆきたいと考えております。皆様と一緒に楽しませていただけましたら幸いです。どうかよろしくお願い致します。

福岡市博多区千代4丁目31-3

扁桃腺手術始末記

陶 易 王

最近では、手術の前にインフォームド・コンセントと称して、患者に病名、手術の必要性を丁寧に説明し、本人が納得したら手術承諾書を書いてもらひのが常識である。

扁桃腺は、咽頭の入り口に位して外部からの細菌、ウィールス、異物の進入を防ぐ。軽い風邪などは扁桃腺が腫脹する事で、更なる炎症を防ぐ。だから扁桃腺は人体にとって防御的な役目を果たしているわけである。だが炎症を繰り返して高熱を発し、腎臓に影響を及ぼす様な時には薬剤以外に外科的な手術が必要になつてくる。

だが、扁桃腺を切除によって咽頭の番人がいなくななり異物や細菌などが侵入して感染などを起こしやすくなる傾向がある。

大介は小さいときから風邪を引きやすくなっています。小学校入学前に手術を受けた方がいいだろうと、6歳の時に扁桃腺切除手術を受けた。この事は、大介の心に深いトラウマを残した。

近頃は、予防注射でもちゃんと説明すれば泣き出す子供になつてしまひ。大介は、両親からは何の説明もなかつた。手術されるとは露知らず、病院に連れて行かれた。

外来の診察台上に座つて口を大きく開かされ、咽頭粘膜に消毒薬を塗つて、喉にいきなり長い大きな注射針を刺された時

「は、何が始まるのかわからず判らず本当に驚いた。

反射的に注射器を手で払いのけ、「痛い！ 何をするの！ 嫌だ止めろー！」

と、わめいた。

父親は狼狽して、耳鼻科の医者と一人で暴れる子を力強く押さえつけ、無理に開口器を挿入し、強引に口を開かせ、扁桃腺切除手術器の針金の輪を咽喉に挿入して半ば暴力的に扁桃腺をひきちぎつた。この時点では麻酔は全く効いておらず粘膜の剥離も不十分だから、痛み

大介は、凝固した血液の塊とガーゼを一緒にガガガーと吐き出せたので呼吸が楽になり、しかし手術は不完全に中断して終了した。

ナースが口に含ませてくれた氷の塊は止血に役立った様で、間もなく出血は止まった。

大介は一休みしてアイスクリームを食べ、タクシーで帰った。この耳鼻科医は父の友人で、腕がいいと評判だったが、

この一件で父にも母にも一拳に信頼を失

も激しく、だーっと出血した。

つた。

耳鼻科医は慌てて咽喉にガーゼを詰めこみ、压迫止血しようとしました。この先生は「」の様な、出血の経験はなかつたらしい。压迫止血のガーゼで気道を塞がれ、

呼吸が苦しくて手足をバタバタさせた。下手をすれば窒息死していい。完全

に人を見るが、暴力的な手術を想い出し恐怖を感じる様になつた。子供の心で、

んなトラウマを残すのはよくない。

大介は扁桃腺を手術してから、風邪を引いても高熱を出さなくなつた。

しかし気管支炎を併発しやすく、しばしば喘息様の発作を起すようになつた。

最近撮った胸部レントゲン写真を見る

母はチアノーゼで紫色になつた大介を咄嗟に前屈させ、背中をバンバンと激しく叩いた。

と、慢性気管支炎で、軽度肺気腫の状態である。

扁桃腺手術の結果とは一概に言えないが、風邪を引くとすぐ気管支炎を起し

てしまひ。

近頃、小児科専門医を標榜する医師が少なくなり、子供の患者が増えた。

風邪を引きやすい扁桃腺肥大児の親に、手術をした方が良いかと聞かれることが多いが、リュウマチや腎炎など合併の恐れがなければ、手術は慎重にした方がよいと、大介は返事する事にしている。

出来尚史

(内科)

残生に彩りを添えんと思ひ、入会を希望しました。「」指導の程よろしくお願ひいたします。

千葉県流山市向小金3-72-2

妄想による右三

啄木との対話

池田壽雄

T・右川啄木(1886年2月20日~

1912年4月13日)=「眞(ト)

I・池田壽雄(1938年11月14日

)=「圖(ト)



天才右川啄木と
架空談する
池田壽雄(ト)

I いたむかは 初めてお皿にかかります。冥土でゆくくとお休みの所を21世紀の娑婆に来ていただきて有難うござります。

T いたむかは じつこたしまして。冥

土はおしある通りに結構なところで申し分ないのですが、変化を好む性分の人間にとっては退屈極まる場所ですよ。例えば、陳列棚に飾られているネクタイみたいなもので、やっぱり男の胸につけられて世の中の風に吹かれて動くネクタイの姿がいいじゃないですか。

I 極楽の貴重な情報を教えていただきて有難うござります。

I それもそうですね、極楽が最高と世間の人は考えて暮らしているのですがね。

T お風呂に入つて、冷え切つた体が温

まるど

T 実に久しぶりに娑婆の方と話す時間がきて、嬉しくです。

I 啄木さんが亡くなられておよそ10年たちましたが、和歌の名手として

全国的に有名になつておられますよ。

T え、ついですか。で

も私は有名になるために和歌を詠んだのではありませんから、そういうことは決してない事です。

I それにしてや、『一握

の砂』に掲載されている24

6首の歌を、1908年の6

月23日から25日にかけて3

日間で歌われたといつのは、

例えて言えば、極楽はそつ

いつ仮分にさつくりです。でも、実際に

は、お風呂から上がりて、シャボンをつ

け体を洗いたい気持ちになるでしょう。

そうしないと、湯あたりしてノボせてし

まいますよね、それが娑婆の姿です。

I 極楽の貴重な情報を教えていただきて有難うござります。

信じられないことですね。まあしく天

オ、啄木さんは天才だと思います。

T 褒めて下さつて有難う。でも、冥

土に来てしまつたら、天才とか鈍才とか

そういう娑婆の評価はひとつでもいいと

です。ただ、そういう才能を『下れてくれた両親には感謝してこます。

われ泣きぬれて磯とたはむる

の歌は特に有名ですよ。現在、ビデオカメラという撮影する器具があるのですが、『ズームアップ』といいまして、撮影している対象をどんどん大きくして撮影する技術があります。

『東海の』といつ言葉で、太平洋、つまり「ラ・シア大陸の東側の海」といつ場所を説明する。つまり、『日本の』といつ意味に取れますね。『小島の』の言葉で、日本列島の一つの小島を呼び出す。『磯の』といつ言葉で、わざと島の場所を鮮明にする。『白砂』といつ言葉で、島の更に一部を明らかにする。『われ泣きぬれて』といつ言葉で、初めて作者の自分がどういつ状態かを伝える。『はむる』で、作者自身が行っている行為を明らかにする。つまり、見事にズームアップが行われています。

「これが、綺麗に『五七五七七』の間におさまっています。本当に素晴らしいのです。

ね。これを数分間の思考で可能にしただけではなくては誰がするでしょうか。

T それは褒めすぎだと思います。私はただ瞬間にそういう映像といつか、画像が頭に浮かんだから匂にしただけと

いう記憶しかありません。大体『歌人』という人種は、そのように分析しながら歌を作るわけではありません。分析する

ことと、歌を詠むことは『ゴルファーのプレー』を報道する人と『プレーしているゴルファー自身』と位に異なった行為であることを世の人は知らないでいるかもしれません。

だから、ゴルフの批評家に、そういう

のだったり、あなたがプレーしたのだったり、話題がゴルフに逸(そ)れました。ですから、話題したら、決まって口ほどに話はプレーできないものです。和歌の批評をするのは楽ですが、作るのはどれだけの苦労があるものか、貴方は知っているのですか。

I おしゃる意味はよく理解できません。

す。情報時代になつて、世の中にermen(意見)を述べる能力を持つ人々がやたらに増えてきました。その副作用が

そのまま問題にしなくてはならないのではないかと私は思つております。

今や、ゴルフのクラブを握つてゴルフを楽しむ人口よりも、テレビでゴルフの番組を見て楽しむ人の実数かはるかに多いと思ひます。

ゴルフの番組のスポンサーは、その辺の事情をよく心得ていて、スポンサーになつてテレビ局に大金を支払つてゐるのだと思ひます。

T つづいて、変な時代とは思ひませんか。

I 話題がゴルフに逸(そ)れましたから、元の、和歌の話に戻らせていただきます。先の『東海の』の歌には、色々な秘密が隠されていると私は思ひます。

1 大と小の対比=海は青い、砂は白い

小石

2 色彩の対比=海は青い、砂は白い

3 湿度の対比＝海は湿っている 砂

は乾燥している

4 動と静＝蟹は動く 砂は静か

5 センチメンタリズム＝泣き濡れる

戯れる

6 音韻の反復＝「東海」のオ「小

島」のオ

＝「われ」のア「泣き」のア

「蟹」のア「戯れる」のア

＝「東海」のノ「小島」のノ

「磯」のノ

和歌は歌ですから、当然、発声して鑑賞しなければなりません。すると、音韻の反復の効果をたやすく知ることができます。

また、東海といつ『海』と歌から推量される一滴の『涙』の対比が、この和歌には隠されていると思います。巨大な大自然と、われとこう小さな存在の対比もあります。

T なるほど。和歌の世界の秘密を明らかにしてくださいて、作者としては正

直言つて嬉しいです。

和歌には必ずテクニックが隠されています。

トに歌を鑑賞する人の心に響く必要があ

ります。けれども、技巧を凝らせば凝ら

すほど、その直接性が失われていく欠点

があります。シンプルがベストなのです

が、そこには紙一重の世界です。

『研ぐ作業』と『削る作業』は似ており

ます。和歌は研がなくてはなりません。

『磨く作業』と『削る作業』も似ており

ます。和歌は磨かなくてはなりません。

『研ぐ』とは、矢の鏃（やじり）を鋭く

尖らせる作業です。歌は鑑賞する人の心

に刺さっていく矢に例えられます。優れ

た歌は、読んだ人が生きている間、忘れ

去られることはありませぬ。矢が抜けな

いからです。

『磨く』とは、歌人が自分の心を磨く作業です。そこにやましい物が隠れている

ならば、読者は容易に感知します。です

から、優れた一首の和歌の後ろには、膨

大な数の和歌があつたと推定して間違いません。

もし、100年の時間が経過して一首でも、国氏が愛唱していたな

ら、その歌人は成功者だと評価できるで

しょう。つまり、その一生に意味があつたということになるでしょう。

優れた歌を作るためには、適切に指導

する人がいなくてはなりません。最高の

指導者は、『読書』です。でも、『一方通

行』の欠点がありますから、作者が上手

に指導を受けるのは困難です。もう一つ

の指導者は、『歴史』だと思います。でも、

作者が生きている間には、実現されない

恨みがあります。私の作った歌が100

年たつても、母国日本人に愛唱され

いると知らせていただけて、こんなに嬉しい

ことです。私は、歌がいつまでも、作者権利で嬉しい

ことです。

『磨く』とは、歌人が自分の心を磨く作業です。そこにやましい物が隠れている

ならば、読者は容易に感知します。です

から、優れた一首の和歌の後ろには、膨

『格差社会』について、啄木さんはどう

考えられますか。100年たつても、國

民に愛唱される和歌の名手としての意見

を聞かせて下さい。

T 「格差社会反対」ところのは、票が欲しい政治家の言に出したいな言葉だと思います。格差は大いに結構、そのように私は思います。短い期間の教育で大きく成長する才能を持つ人がいます。神様はそのように作っておられるのです。

こうこう私は政治家には向かない人間だと自ら承知しています。政治家が行う行政は『機会の平等』にとどめるべきです。『結果の平等』を凡庸な庶民はとかく求めます。また、それが『自分には実現できない』と厚かましくも平気でウンをつける政治家に喜んで庶民は投票します。だから、民主主義は政治的には庶民へ受け入れられているのです。

文化の世界では『結果の平等』なんてありません。そもそも才能が不平等なのに結果の平等を求めるのは『水は高きより低きに流れ』といつに迷いつ行為だと思います。文化は作る側と鑑賞する側の二つに分かれると思います。才

能ある人間は『作る側』に屬すればいいし、才能がない人間は『鑑賞する側』に属ればいいのです。共に仲良く文化を楽しめばいいのです。ありませんか。

現代の教育は『作る側』をたくさんにするのが良い政治だと勘違いしているのではないか。

『作る側』は文字通りのエワードです。

凡人の数百倍の難関を突破する才能が要求されます。有名なプロゴルファーの『石川遼選手』がその代表です。残念ながら、2009年4月の『マスターズ・ゴルフ・トーナメント』では6オーバーで予選を落ちましたが、彼のプレーを楽しんだ日本人は数百万人いたのではあります。せんが、ゴルフはスポーツの一種ですが、今や代表的なエンターテイメントになつております。

和歌の世界でも、全くその点では共通しております。才能がある若者はそれを伸ばせばいいし、ない者は作品ひとつで結果を楽しめばいいのです。私はそ

のよつに考えてします。

I 貴重なご意見を有難うございました。石川啄木さんが、同じ姓の石川遼選手について、最新の情報をご存知だとは知りませんでした。本当に驚きました。

今日は、冥土でゆっくりとお休みのところを、ここに来ていただいて、しかも貴重なお話を聞かせて頂いて有難うございました。心から感謝申し上げます。ご冥福を心からお祈り申し上げます。

(2009年4月13日記) 命日の口上

4月の文学忌	
4月1日	三鬼忌(西東三忌)
2日	連翹忌(高村光太郎)
5日	達治忌(三好達治)
8日	虚子忌(高浜虚子)
13日	啄木忌(石川啄木)
16日	康成忌(川端康成)
20日	木蓮忌(内田百閒)
30日	荷風忌(永井荷風)

比翼の鳥

福富清子

尾形彷さん死去

苗薙・藤村研究第一人者
ら近世俳諧研究の第一人者、尾形彷

「近所の方で お能や俳句に造詣の深いO・K夫人と親しくさせて頂いています。奈良出身の夫人は、奈良女高師付属小学校で東大寺前管長と同級。東大寺境内で我が家家庭のことで存分に遊ばれたとか。

その方が、昭和30年代に「医家藝術」と深く関わっておられたといつ高橋希人氏の歌集「思念」をお貸し下さいました。かような事を医家藝術事務局にお伝えしたといふ。さつそく医家藝術10周年記念誌『ゆかり』に掲載された同氏の作品10首の「コピー」が送られました。氏は、当時の本誌短歌欄のほか隨筆にも健筆を振るっていたそうです。いずれ夫人にもお見せして楽しい語りの時を持ちたいと楽しみにしています。

ところで、今回の俳句の句「春の闇

比翼の鳥の味寝(つまい)せむは、去

る3月26日、他

を取り上げられています。作者は尾形雅子、尾形夫人でした。夫人は三十年余歌道に勤しまれ、その間の作品を歌集『夜の泉』にまとめ、十月末、花神社から上

梓されていたのです。その中には

用例のとぼしき中より語意を汲むと

腐心の夫に父が重なる

まつすぐに真中を自指す夫に添ひ

ななめ道草わが止みがたく

藤吉郎とあだ名さづかりわが猫の

主の席を占めて温む

夫は外にわれば内より窓を拭ぐ

なほいささかの曇り惜しみて

二人きりの暮しにあればわが病むは

非常事態ぞ夫蹶起せり

流し台低きをかこつ丈高き

夫のこじみてもの刻みをり

折りをりに想うべくなりぬ「美しき

ひと葉」となりて地にかえらむを

人みなの神仏に見ゆ病むわれに

なし得るはただ「感謝」あるのみ

など 戦争、平和、大学紛争、オーム

2006年11月5日付朝日新聞「折々

（おがた・つむ）さんが26日午後9時4分、多認體大室（おおにやくたいしつ）のため横浜市内の病院で死んだ。89歳だった。通夜は午から川崎市生糸町1の23の8の百合会セレモニーホールで近親者で送り、喪主は長男誠明さん。

東京生まれ。類

別表題は「まきひちゆ

よ」を手がかりに藤村の自

筆句題を復元、推測した4年

の「藤村自筆句帳」（読文

学賞受賞）著書に「藤村研究」（画

期的叢書、評価される。

著書に「座の文庫」（古薙

）

縁かな五十五年を眠りをりし

用例カード「いま夫の手に

肉親、友人、趣味の草木染め等とともに、家庭内で尾形先生が猫と戯れる姿や、ガラス戸を夫婦が内と外から磨きあつ姿など、まことに微笑ましい情景が描かれていました。こんな素敵なお歌を詠まれる奥さまと大学者のコンビが、この世のものと思えない程でした。

ところが、その年も押しつつまた12月26日奥様がご他界になつたのです。お二人の間の最後の約束が、『江戸時代語辞典』の完成、だったのががいました。私は、夫人の「逝去を悼み、霜付えて比翼の鳥の片羽落つ」と詠みました。

『江戸時代語辞典』は昨年11月、着手から70年の歳月を経て遂に角川学芸出版より刊行されました。そして奥様の三回忌を前に追悼文集『美しきひと葉』が出版され、「もつ思い残すことはない」と先生にじっとお疲れが出なこととを周囲が念じておりました。

2月、腰痛で入院。リハビリ順調との

ことでしたが、容態急変、わずかな可能性にかけての手術も空しく、彼岸へと旅立たれたのです。

ことでしたが、容態急変、わずかな可能性にかけての手術も空しく、彼岸へと旅立たれたのです。

たのです。伯父は樂しくて仕方がないと、彼の世よりの花の便りにぬき紹ふる」と思いました。そして、私は、感動でゾッとしました。あり得る」と思いました。そして、

彼の世よりの花の便りにぬき紹ふる」とつたない悼句をノートに記しました。

奥様の時と同じく、唐の太宗皇帝・楊貴妃をつたう白楽天「長恨歌」の

「連理の枝、比翼の鳥」

「にならつたものです。表現が今様から遠く離れていることは承知の上、今日自分の胸に懐々と迫る思いをそのまま吐露してしまいました。



尾形 由良編

美しきひと葉

尾形雅子追悼集

姪御さんのお話です……

「伯父を見守るために、集中治療室の隣の部屋に一人で控えていた時に、私は確かに伯母が優しい声で、『あなた、そろそろここからへいらした』と、こののが聞え

尾形氏が新宿の朝日カルチャーセンターで「無村を読む」を開講された1990年から、先生がご体調の関係とライフワークに集中すべく開講となる2002年まで、その

田村と芳賀の因縁

田 村 豊 幸

まえがき

物事はすべて、その起源（因）と、果を結ばせる作用（縁）によって、定められてくる。運命なるものがあると言われてくる。

その通りだと思つ人もいれば、そんなことはないと思つ人もいるし、わからなといといふ人もいる。

この話は、その通りだと思つ派の人の話である。

私は大正十一年十一月十九日に、黄京の都から天皇に配流された人が来た栃木県東南端の芳賀郡の葛岡市に生まれた。奈良時代の栃木県は想像を絶する未開の土地であつたらしく、芳賀といつのは、茨城キリスト教大学、志田謙一教授によると、荒墓（はか）の文字をきりつて芳

賀の好字に改めたのではないかといわれている。

箱根の関所を越えた所から見る一面の縹渺たる荒野にひろがる無数の古墳を目にした関西から北上した人は、そう思つてゐる。

の無理はなかつたかも知れない。

話は新しくなるが、明治天皇が京都から東京へうつられたときも、箱根までが文化的和人が住む土地で、それを過ぎて北進すれば蝦夷地に近づくにつれて不安の増す土地とされていたといつ。

さて、芳賀氏のことであるが、史上これが正式に現われるのは次のよつである。

（七代略） 清原高重（従五位下・大監

物寛和元年酉冬蒙花山天皇勅勅下野国一
遠流サレ芳賀郡鹿嶋戸郷松原之里一居入
長保元己亥十一月一日（九九九）卒京泉
北野ニ葬ル

この清原高重のあと六代続いて清原高

澄の代になつたとき、日河天皇の承保一年

（一〇七八）に下野へ戻ってきたとき、即ち高澄の代に「芳賀初代」ときめたのである。清原姓を芳賀姓に変えたのは、大前神社といつ當時その土地を中央で管理していた社領の領主になつたためと考えられている。

延喜式内神社の官司は、その地方の神の祀を担当し、治安行政は武士が担当していたのである。

ところで、第65代花山天皇だが、この天皇の父第64代清原天皇は『栄花物語』によると、藤原族王権の天皇競争に負け憤死した広平親王の怨靈に祟られて発狂したと記されている。花山は自分こそ64代天皇になれるかと思つて、いたら、日の前で円融に奪われたので、ひどく落胆した。

さて花山天皇はある口、側近だつた天武天皇の系統である清原高重をフトしたことで怒り（勅勅）下野国へ配流した。清原は下野の芳賀の地へ住みついた。

高重については前述したが、高重が配

流されるとき、それについて来たのが田

村の先祖と伝えられているから、私は、

清原のあとの方賀とも因縁は浅くないと

思つので

あ。

そのた
めかつ
て「花山
天皇」と
いう一書



をまとめた（平成十一年、大阪美健力

（イド社発行）

芳賀善次郎先生と念ひ

昭和四十三年新宿区市谷薬王寺十一に

住む芳賀善次郎先生の「芳賀氏変遷氏」

という著書がある。芳賀先生は山形県西

置賜郡鮎貝村（現白鷹町九九一〇八二）

に大正四年に出生され、この本を世に残

され、そこには概略次のように加えさ

せていただいたのである。偶然の因縁の

偶然と思われることが起つたので、そ

れをあげてみる。

芳賀善次郎先生が昭和十九年、集団疎

開させられた所が、「先祖の領地だったた

芳賀郡である」ことがその第一。

長い間、私がおつきあいした栃木県文

化財保護委員会佐藤行哉先生に、「先生がお

亡くなりになるすぐ前、芳賀の殿様のこ

とが急に気になつて、いろいろ教えてい

ただいたこと。

芳賀先生がまだ調査されていない場所

だった、会津・常陸・出羽・筑前など、芳

賀氏旧跡のある地元から、薬理学の講演

を次々にたのまれたので、まったく経費

をかけることなくその土地へ行くことが

でき、芳賀先生の「調査をお助けする」

とができたのがその第三。

芳賀氏の始祖、清原高重公は花山天皇

の勅勅により下野へ配流されたが、今年

の京都講学大会に出席の際、学術視察の

場所が花山天皇御陵のとなりで、しかも

附近の地名と下野芳賀の地名などが酷似し

ていて、そのことを発見したのが、その第四。

芳賀一洋氏と念ひ

芳賀善次郎先生と念えたことは、私は

とつてたいへん重要なことだが、不思議

なことがさうに起つた。

それは白河・芳賀重広の子孫芳賀一洋

氏との奇遇である。平成八年五月のこと

である。朝日新聞が渋谷パルコで芳賀一

洋による「八〇分の一の世界・木造機関

庫たち」という展示をやることを写真つ

きで報じていた。

説明は、「昭和初期の機関庫や駅舎・給

水塔・作業小屋・タクシー会社などの木

造建築を実際の八〇分の一の大きさで再

現した約二〇点の風雨にさらされ、さび

付いた煙突やまくわ上がりのトタン屋根

など、芳賀一洋氏による「スタイルジック

な作品」とあった。

私の曾祖父直七らが真岡線の敷設に苦

労したこと思い出していた。展示台の

上には、私の少年時代の真岡停車場付近

そつくりの光景が、ずらり並んでいた。



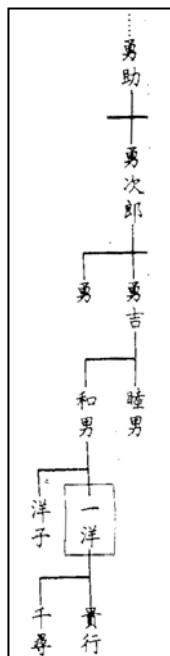
かつての真岡にあった鉄道ステーション

お盆休みで帰省したとき、当時の真岡の菊地恒三郎市長に、その作品のことをお話をした。菊地市長が汽車大好き市長であることは私もむかしから良く知っています。かつて、真岡線に汽車を走らせるとして、協力したこともある。おかげで、むかしの真岡停車場付近の超精密模型を、芳賀氏が精魂こめて制作することになり、現在、真岡駅構内に展示され、多くの人を釘づけにしていることは、ついに限りなのだ。

後日、それらの作品を作った芳賀一洋氏が、系図に示した芳賀十一代高直の弟・重広の子孫であることを知った。一洋氏は五代前から系図が明らかである。しかし、一洋氏から次のようなおたよつをいただいた。

「私の本籍は白河市道場小路一六番地で、祖父・勇吉の時代、明治四十年頃、東京に出て居をかまえました。母は上三川町の出身で、幼少の頃、母の里帰りのとき、かなり私を上三川に連れられ、鬼怒川や小川や山を駆け巡ったものです。そんなある日、『今日は真岡へ行くよ……』突然母が言い出し、一里の道程を自転車の背中にのり、広い大きな庭のある真岡の農家宅に一度だけ、おジャマしたことがあります。

その頃の情景は今もクリクリと私の脳裏に刻まれているのですが、ジャラジャラとクサリで汲み上げる方式の暗くて恐ろしい井戸や、白つちゃけた矢野バスの終着駅舎、その脇に建っていた大きな木造倉庫など……それら全部が、最近急に作り始めた私のストラクチャや、一の土蔵になつている



「みやべや」

部が、最近急に作り始めた私のストラクチャや、一の土蔵になつている